



閉校
特集

上小学校



おがわ しょうじ
小河 正二先生

「子どもたちの心が強いですね。神楽を通して学習で、自立心が育まれていると思います。上級生が下級生に教えてあげたり、より良い舞いにするために自分たちで考えて行動をしたりしていました。」
神楽では、全校児童10人という少ない人数で数演目を舞うため、お囃子の人数も限られています。笛の奏者が1人しかおらず音が聞こえにくいということで、閉校記念式典では児童自ら笛の音を拾うマイクを提案。そうして披露された上小として最後の子ども神楽では、素晴らしい舞いに会場から惜しみない拍手が送られました。

100周年、130周年など、節目節目で行事をしていたことも、上小学校の特徴だと言えます。
「100周年行事を行った小学校は県内でも少ない。やはり、学校の力・地域の力があつたからこそ、こうした節目の行事をやつてこれたのだと思います。その地域力は、昔も今も変わりありません。」
最後の2年間は、そんな《ふるさと》に誇りと愛着を持つて、心豊かにたくましく生きてほしいという願いから、地域の『ひと』『もの』『こと』を活かした体験活動を充実させました。
「農作業や焼き物、音楽教室など、いろんな体験活動を行いました。《ふるさと》は心のよりどころになります。子どもたちには、ふるさとを愛し、夢と希望に向かって努力していつてほしいですね。」
「小学校はなくなりますが、上地区の子どもたちは変わられません。地域の皆様には、今後も温かいまなざしで子どもたちを見守っていただきたいと思っています。」



3月5日、上小学校の閉校記念式典が行われました。上小学校の歴史は、明治9年に開校された久木野尾尋常小学校・日指尋常小学校から始まります。両小学校が大正15年に合併し、昭和22年に上小学校と改称されました。その後、昭和33年に南端北部小学校とも合併。140年にわたって地域に親しまれてきた学校です。
平成4年からは、教育活動の一環として郷土の伝統芸能である神楽を取り入れ、「上子ども神楽」として地域のイベントなどで活躍してきました。

「私が小学生のころは、とにかく先生が厳しかったです。1年中：例え雪の日でも、半ズボンで登校していました。」こう話してくれたのは、最後の1年間PTA会長のを務めた菅原英樹さんです。ご自身も上小学校を卒業されました。
PTA会長として閉校行事に関わる中で、あらゆる学校活動で地域の方々・保護者の方々が協力的なのが印象的だったとのこと。特に、運動会は学校行事と言うより、地域全体の行事でした。
「人数が少なく、児童だけでは運動会ができないんです。地域の皆さんの参加があつてこそ、運動会や、いろいろな行事を行うことができました。」
最後の運動会では地域の大人が綱引きや仮装行列などで参加し、盛り上げてくれました。
本音を言えば、地域の小学校はなくなつてほしくないとのこと。しかし、閉校行事に関わることでできたつながりには感謝の思いが絶えないと言います。

この4月から、児童らはそれぞれ山香小学校・山香中学校へ通います。
「上小で学んで、皆さんは自立心や忍耐力など、素晴らしいものを身に着けました。児童の皆さんには、上小を誇りに思つてほしいです。どこへ行つても、地域みんなが皆さんの応援団です。」



すがはら ひでき
菅原 英樹さん

「いろんな方の協力のおかげで、こうして子どもたちを送り出せることに感謝の思いです。これまで子どもたちを見守つてくださった教職員の方々、地域の方々、本当にありがとうございました。」
「『学校は地域の光 子どもは地域の宝』と言います。小学校がなくなつても、これまでと変わらず、地域の子どもは地域みんなを守つていけたらいいなと思います。」

